と味違う寒さの中、 同じ冬とはいっても、 げた子どももいました。 帰り仕度を済ませ、

目標達成です。 中には大きさがワカサ

2時間挑戦し、

結果は合計190匹。

エサを取られてしまっているそうです。

今日はひとり10匹を目標に16人で約

竿先が上下に揺れているときは、

もう

ばやく引き上げる。

とのことでした。

糸を見ること。糸が左右に振れたらす を下ろしたら竿先を見るのではなく、

スタッフからの指導によると、

釣り糸

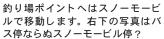
ギより明らかに大きいヤマメを釣り上

息していることを学んだ教室でした。 てこの厳しい環境の中でも生き物が生 温めながらバスは羽幌へと向かいます。 自然に触れ、 羽幌とはまたひ 冷えきった体を そし

右上:釣り針にエサを付 けます。寒い中指先の 細かい作業は大変です。 右中:釣り上げたワカサ ギ。小さくても銀色に 輝き堂々としています。 右下:釣り糸の振れを見 ます。竿は持たずに置 いた方がいいようです。 左:羽幌に到着後、さっ そくワカサギの天ぷら を囲んで夕食です。









目標は、 ひとり10匹

見ることができるという朱鞠内湖へ向 が、通常は厚さ%センチにもなる氷に方が氷に穴を開けておいてくれました 釣り場ポイントまでは、 かいました。 モービルは、 た。 フがスノーモービルで送ってくれまし 込んだときにはダイヤモンドダストも を乗せたバスは公民館を出発し、 恒例のワカサギ釣りです。 子どもたち 動の第3弾、 ポイントではあらかじめスタッフの 凍った湖面を颯爽と走るスノー いよいよワカサギ釣りの開始です。 到着後、 それだけでも楽しめます。 2月のメニューとしては 早めの昼食をと 現地のスタッ 冷え



haboro weekend circle

その8

第9回

活動データ

メニュー:ワカサギ釣り 日程:2月9日 土曜日 場所:朱鞠内湖(幌加内町) 参加:16人(4年生~6年生)

第9回目となる今回の教室は町外活

分たちでやるとなると、 のドリルで開けるそうです。直径20センチ程の穴を手動 大変ですね。 これを自

です。 とワカサギは逃げてしまうそうです。 氷の下によく伝わるので、 ろせばいいかは様子を見ながら決めて ワカサギは集団で回遊するらしく、 さっそく氷の穴に釣り糸を下ろします。 いでいる深さもその時々で異なるそう さて、 子どもたちは釣竿を準備すると、 きます。また、 このため、 最初に糸を下ろしてから数秒で 子どもたちの釣れ具合はとい 湖面での音や振動は どの程度釣り糸を下 騒ぎすぎる 泳

うと、 れて釣れない子もいるなど様々です。釣り上げた子がいれば、エサだけ取ら

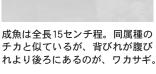
ワカサギのはなし~

漁期は10月から3月頃で、記たものが定着しています。 地の湖やダムなどでも、放流: 北のようですが、分類される魚で、 境に広い適応力があり、 ての需要が高いことから、 ワカサギは、 本来の分布域は関東 キュウリウオ科に 、水温など生息環の分布域は関東以、湖や内湾に生息 放流されり、日本各

ことから由来しているそうです。将軍家に年貢として用いられた と「公魚」と書きます。 ちなみにワカサギを漢字で その昔、

での穴釣りがおなじみですね。いられますが、やはり凍った湖面網や地引網など色々な漁法が用

刺





自